

## 『みんなの平和こうどくぶん』

吉田真司

「戦争を否定し、平和を希求する。多様性を重んじ、差別を排し、人権を喜ぶ。目の前の現実とかけ離れているからこそ、崇高なる意義にこだわり、大切にしたい」(朝日新聞 7/26 「天声人語」より) ——同日に開幕するパリオリンピックに向けて書かれた一言です。文中の「目の前の現実とかけ離れている」との言葉に頷きながら、しかし同時に「崇高なる意義」を共に希求していきたいと思われました。

「イエス・キリストは言われる。 『平和をつくりだす人たちは、さいわい。』

平和の約束を破る人たちを 神は悲しむ

戦争に賛成する人たちを 神は悲しむ

戦争を始める人たちを 神は悲しむ」

これは、日本バプテスト連盟「平和に関する信仰的宣言」(以下「平和宣言」)推進プロジェクトによる「みんなの平和こうどくぶん」(2024年)の冒頭部分です。当教会では「平和宣言」本文を8月平和月間の主日礼拝で用いてきました。しかしコロナ危機中の短縮礼拝ではその使用を割愛してきました。そして昨年度、礼拝が全員参集形態に戻り、あらためてその使用再開につき教会役員会で検討したところ、幾つかの課題を確認しました。それは、礼拝式の中で唱和するには分量が多いこと、またその言葉遣いの難しさでした。そして先日、6/25に開催された平和宣言学習会で、上掲の「みんなの平和こうどくぶん」の一部が紹介されました。それはこどもから大人まで理解しやすく、礼拝で用いやすいように、アレンジされたものでした。その学習会では、南西諸島の軍備化の実際について詳しく知らされ、大いなる危機感を抱きました。そしてその中で唱えた「みんなの平和こうどくぶん」に心から「アーメン!」と声を合わせたのでした(次回の学習会は8/27予定です)。

次週より一箇月、平和月間として、この「みんなの平和こうどくぶん」を礼拝の中で用いていきます。平和の祭典の只中で、現実には平和が成ることを祈り求めつつ。

## 教会の定例集会

主日礼拝	日曜日	午前 9:00~10:00 (相模原礼拝)
		午前 10:40~12:00 (会堂礼拝)
教会学校	日曜日	午前 9:30~10:20
		(嬰兒、幼児、小学生、中高生、青年、成人、英語、聖書入門の各クラス)
祈り会	水曜日	午後 7:30~9:00
金曜集会	金曜日	午前 10:30~12:00
家庭集会 (相模原)	第二火曜日	午前 10:00~12:00 (竹村家)
(すずかけ台)	第三木曜日	午後 1:30~3:00 (長谷川家)

## 日本バプテスト相模中央キリスト教会

〒242-0007 大和市中央林間4-24-6 TEL&FAX 046 (274) 3708

牧師: 吉田真司 音楽・子どもユース担当主事: 江原美歌子 協力牧師: 斎藤剛毅

<http://www.sccc.sakura.ne.jp>